

仕事終わり、学校終わりの短編演劇 20/1440min. —2021—

椅子語り

登場人物

五月田（さつきだ）／君沢（きみさわ）
老人／唐桶（からおけ）
重恩寺（じゅうおんじ）

Ep01 電話交換室の椅子の話

現代の福島市。文化通りの途中、細い路地を曲がった所にある椅子語り屋「吹きしま椅子店」が舞台。

二十代後半の女性、五月田（さつきだ）は、日帰りの出張で一〇年ぶりに故郷の福島市に戻ってきている。彼女は、幼い頃に実家で飼っていた黒猫「つくね」に似た猫の姿を追い、この店を訪れる。

幕があがると、下手の老人と彼が腰掛ける椅子が照らされている。静かなピアノの音。老人は、椅子を揺らしながら本を読んでいる。

五月田 ……こんばんは。こんばんは……。〔声が帰ってこないの誰もないのかと思い、猫を探しはじめて〕つくねー。つくねー……。
老人 ……こんばんは
五月田 うわ。あ、すいません。勝手に入ってきてしまっ。声かけたんですがまだやってるよ。
老人 え？
五月田 扉。開店ってかかってただろ、
五月田 お店……。？なんですか？

五月田の目が慣れてくると、大量の椅子が見えてくる。和、洋、新しいものから、古いものまで。その多くがボロボロだが、座ることは出来るものである。中には、腰掛けるのにちょうどいいような石など、普通の店では「椅子」として販売はしていないが、歴史の中や日常の中では腰掛けるという役割をもったものも。五月田、その大量の椅子に呆気にとられながら

五月田 椅子？

老人 ああ、椅子だ

五月田 アンティークショップ？

老人 あんてー？

五月田 こんな店あったつけ。長いんですか？

老人 なにが

五月田 いや、この店

老人 ああ、随分になる

五月田 気づかなかったな。文化通りってあんまり横道それること無かったから。ま

老人 つすぐ稲荷神社まで

老人 ・ ・ ・

老人 結構変わっちゃいましたね。この辺

老人 さあ

五月田 さあって・ ・ ・。椅子以外にないんですか？

老人 ない

五月田 へえ。あ、この椅子壊れちゃってますよ

老人 それは高いよ

五月田 え。壊れてるの？鑑賞用？？ ・ ・ ・こっちは高そう

老人 安い。なんの値打ちもない。見る目がないな

五月田 本当ですか？

老人 ああ

老人 ・ ・ ・(マスクをつけてないことに気づき) それじゃ

老人 待ちなさい

五月田 はい？

老人 なにか探していただろ

五月田 いえ

老人 つくねー、つくねーって

五月田 いえ

老人 落とししたのか？つくね

五月田 違います

老人 じゃあ、なんだ

五月田 猫です。つくねって名前の

老人 猫？

五月田 ええ、昔飼ってた。いるわけないんですけどね、もう。その子にそっくりの

老人 猫がここに入っていくの見て、思わず寄っただけで。ごめんなさい、新幹線

五月田 の時間あるから、そろそろ行かなきゃ

老人 いるかもしれんな

五月田 え？

老人
ねぎま
五月田
つくねです
老人
あー、どこかな、つくね、つくね・・・

老人、猫の名前を呼びながら椅子を探し始め、一脚の椅子を取り出し

老人
つくねな。そら、こいつだ
五月田
あの、つくね、椅子じゃないんですけど
老人
猫だろう？
五月田
そうです。これは、椅子でしょ？
老人
はあ？
五月田
いやだから、これ、椅子！！
老人
そうだって言ってるだろうが！！これは！！椅子だ！
五月田
つくねは、猫です
老人
つくねは、食い物だ！
五月田
そうかもしれないけど！いや、だから、これは椅子でしょ！
老人
これは、椅子だよ
五月田
はあ！？
老人
椅子は椅子。お前みたいな奴からすれば、ただの椅子だ。なんだ、迷い込んできたから、見込みある奴かと思っていれば、なんてことない。あんたの見
た猫は見間違いだ
五月田
そうですか！
老人
ああ、わかったら、とっとと帰りな！商売の邪魔だ！
五月田
邪魔って。他にお客さんいないじゃないですか！
老人
今から来るんだ、いっぱい
五月田
来ません
老人
来るんだ
五月田
商売っていうんだったら、もっとちゃんと陳列してください。こんなポロポ
口の椅子売るなんて何考えてるんですか。これだから田舎は
老人
帰れ
五月田
ほら、これも壊れてる。こんなんで
老人
売らないよ
五月田
はあ？
老人
椅子は売ってないんだ
五月田
じゃあ、なに売ってるんですか
老人
教えてあげない
五月田
もう！・・・あれ、この椅子
老人
なんだ

五月田 ……これ、いくらですか？
老人 売らないって言うてるだろ
五月田 ああ、そうですね
老人 ……だが、なんだお前、お前
五月田 五月田です
老人 五月田。なんだ、この椅子のどこがいい？
五月田 いや、なんだろう。なんて言ったらいいかわからないけど
老人 ……良いよ、売ってやる
五月田 あ、いや、こんなの新幹線で持って帰れないし
老人 座ってみろ
五月田 え？
老人 座ってみろって。いいから、その椅子をそうだ。ここに、真ん中に持ってきて
五月田 あ、はい
老人 座ってみろ、そうだ……。そうして、目を閉じて、音を聞け。いいか……。
どうだ……。時計の音から……。すうと、意識を遠くに……。風の音……。
雨の音……。人が何かを話す声……。音楽が聞こえてくる……。
ゆっくりと照明が落ちていき

老人 さあ、椅子語りの始まりだ。

五月田が選んだ椅子の物語。大正七年、五月のこと。福島電話局飯坂局の
電話交換局にて。電話交換手の君沢（きみさわ）と、飯坂局の唐桶（から
おけ）が話をしている。

君沢 お願いします、唐桶さん
唐桶 そりゃあ、部下の頼みだよ。聞かないわけにもいかないけどね
君沢 良かった
唐桶 でもね、君、こうなる前に断れなかったのかい
君沢 いつもお客さまには失礼のないようにつて
唐桶 そりゃそうだがね、
君沢 困ったら、申し訳ございませんで通せて、姉さん達も
唐桶 申し訳ございませんって言うてたらさ、交換局まで押しかけるなんてことは
ないだろう。いいか、君たちの仕事は、電話を受けて、その相手が望む電話
に電話線を繋ぐ。それだけなのに、なんでここまで押しかけてくるくらい
の色恋沙汰になるんだ
君沢 うーん……

唐桶 うーんじゃないよ、まったく。良いかい、電話交換手の仕事は女性にとって、花形の仕事だ。やりたいなんて人はこの飯坂どころか、福島中に、いや日本中にいるんだよ。面倒を起こさないでくれよ

君沢 解ってます、解ってますが・・・だって、相手の方、すごく偉い人ようだったから

唐桶 そうなのかい？

君沢 ええ・・・華族（かぞく）の人じゃないかなって。そんな人の機嫌を損ねでもしたら、それこそ、こんな田舎の電話局の局長さんなんて仕事無くなっちゃうじゃないですか！

唐桶 待って待って、華族？？なんて人？？

君沢 重恩寺（じゅうおんじ）さん。局長、知ってます？

唐桶 知らない。でも確かに偉い人っぽいなあ。三文字だもんね

君沢 寺つきますからね

唐桶 どこから電話来たの？

君沢 二番でした

唐桶 日銀か・・・

君沢 借りて電話してるって

唐桶 なんで家からじゃなかったんだろうな

君沢 そりゃあ、だって、電話局の交換手口説こうとしてるんですから

唐桶 日銀からもかける？？それ？？

君沢 それくらい夢中にさせちゃったんですね、私

唐桶 声だけで？

君沢 先輩もそれで結構結婚してるじゃないですか

唐桶 そりゃそうだけどさ

君沢 お願いします〜！

唐桶 待った。結婚しちやいなよ

君沢 は？

唐桶 は、じゃなくて。重恩寺さんと結婚しちやいなって。丸く収まるじゃん。結婚までいかななくても、お付き合いだけでも

君沢 最低ですね

唐桶 いやいいじゃん！金持ちだよ！？働かなくて良くなるじゃん

君沢 私、心に決めた人いるんで。そうですよね、いや、きっぱり言います。ここまで押しかけてくるなんて気持ち悪いです、イヤですって

唐桶 待って待って

君沢 はい

唐桶 分かった、分かった。僕が対応するから

君沢 ひとつ提案が

唐桶 何？

君沢 こういうのって、相手から諦めてもらったほうが良いと思うんですよね

唐桶 え、まあ、そりゃそうだけど

君沢 重恩寺さんは、私の声しか知らないわけです

唐桶 ああ、まあ、そうだね

君沢 唐桶さんが、私ってことにしましょう

唐桶 はあ、何言ってるの

君沢 ですから！声は女性だけど姿が男性なら諦めつくじやないですか？っていうか、

相手からひいていくでしょ！

唐桶 え、いや、ちょっとそれは無いんじゃない。いいよ、僕が普通に対応するっ

て

君沢 ここまで押しかけてくる人ですよ！？

唐桶 引き下がらないって？

君沢 はい。むしろ絶対燃えます。そういう人って恋の障害があればあるほど燃え

るんですよ

唐桶 そうかなあ

君沢 間違いないです。ですから、唐桶さんが

唐桶 えー、なに、僕が女性みたいな声でやればいいんですか？

君沢 こんばんは

唐桶 こんばんは、重恩寺さん

君沢 動きまでやる必要はないですか？

唐桶 そうか

君沢 というか、声は解ってるんですよ。バレちゃうか

ドアベルの音

君沢 来た！

唐桶 どうするんだ！

君沢 私、声出すんで、うまく合わせてください

唐桶 無茶言うな！

君沢 いきますよ、「無茶言うな！」

唐桶 (唐桶合わせて動いて) おい！

重恩寺 (声だけ) こんばんは。すみません

以下、君沢は隠れながら台詞を言う(☆)。唐桶それに合わせて動く。重恩寺入ってきて

君沢 ☆ どうぞ！

重恩寺 ☆ すいません、どうも、こんばんは

君沢☆ 重恩寺さんですね
重恩寺 ……えっと、何だったかな、お名前、交換手をされている君沢さんという
君沢☆ 私です
重恩寺 君沢という女性
君沢☆ 私です
重恩寺 いや
君沢☆ 君沢です。先日はお電話、たいへん盛り上がりましたね！
重恩寺 ……本当かね
君沢☆ はい、そうですけど…
重恩寺 その声
君沢☆ この声ではなかったですか？はい、飯坂電話局です。ね
重恩寺 いや確かに聞き覚えはあるんだが。いや、てっきり
君沢☆ てっきり？
重恩寺 女性かと思っついていてね
君沢☆ あれー、私、女性って言いましたっけ？名前は確かに聞かれましたから、答え
えた記憶もありますけどもー、性別聞きませんでしたよね。ご期待に添えず
申し訳ございません。お・と・こ・の・こです！
重恩寺 あ、ああ…そうか…
君沢☆ ということで、ありがとうございました。またのご来店を心よりお待ちし
ております
重恩寺 いや、待ってくれ
君沢☆ え
唐桶&君沢 別に性別なんて関係ないんだ
重恩寺 え
重恩寺 いや少し面食らったけどね、あなたとお話をして会いたくなってね、少しお
時間を頂戴したい。お仕事の手は止めさせてしまって申し訳ないが、良いで
すか？
君沢☆ いやあ、ちょっと今忙しくて
重恩寺 電話がきたらもちろん出てもらって構いません。少しだけ
君沢☆ あっ、ちょっと大事な要件、守秘義務が生じる電話がそろそろ来るんですた
。ああ、ちょっと忙しいなあ
重恩寺 何時くらいになったら空きますか？それまで待っていますから
君沢☆ えー
重恩寺 なんだったらお仕事終わるまで待ちますよ。東京には明日帰る予定ですから
君沢☆ 東京から
重恩寺 ええ。良かったらお食事をしながらでも。お酒は好きですか？ご馳走しま
す
君沢☆ 夜の飯坂で！？

重恩寺
君沢☆ はい・・・？
あ、あ、えっと、ととととりあえず、ちょっと外で待っててください

唐桶、重恩寺追い出し

唐桶 おいおいおいおい！まずくないか
君沢☆ まずいですね

唐桶 出てこいよ！！どうするんだ、東京から来てるぞ、金持ってそうだが、本当の貴族じゃないか、あれ
君沢 ええ・・・わかった
唐桶 おう、どうする

君沢 唐桶さん、結婚すれば良いんじゃないですか！
唐桶 出来ないよ！
君沢 奥さんいないじゃないですか
唐桶 そういう問題じゃなくて
君沢 制度上
唐桶 違う！

君沢 ありだと思えますけど、別に
唐桶 だから違う。だいたい、お前、そしたらなんだ、四六時中常に俺の声やってくれんのか

君沢 お、やりますか！？

唐桶 やらねえよ！！

君沢 私もちよっと

唐桶 なら言うなよ！！

君沢 でも本当に機嫌損ねないほうが良いんじゃない

唐桶 君沢、お前が出てきてもう謝れ

君沢 もう駄目でしょー。こんなフザケた真似して

唐桶 フザけた真似させたのはお前だ！！

君沢 ごめんなさーい

唐桶 あああ、もう！！

君沢☆ 待て、落ち着こう

唐桶 声あてんな、やめろ！

重恩寺 (声だけ) あ、すいません

唐桶 ひえっ

君沢 とりあえず、なんと少しでも追い返しましょう！！

唐桶 失礼はないようになー！！

君沢☆ はい、どうぞ

重恩寺再び入ってきて

君沢☆ はいー、どうしました？

重恩寺 いややはりお忙しいでしょうから。伝えることだけ伝えようと思って

君沢☆ え

重恩寺 いえ、ああ、ただ、私の思いをお伝えしたいだけです、良いんです

君沢☆ いや、ちょっとどうなんですかね、それは

重恩寺 聞いてください

君沢☆ ああ、えっと、ちょっと心の準備

重恩寺 (紙を取り出し)

君沢☆ うわ、紙・・・

重恩寺 「ズーとなだらかな丘陵(きゅうりょう)が彼方の山並まで続いて、ちょう

ど指で摘み上げたような低い山々の上には、見事な吾妻富士の一角が他に抽(ぬきん)でてそびえている。色彩は乏しい北国の天地に、今雪解けにかかっているこの山の姿ばかりは、まったく素晴らしい美しさをもって、あらゆるものの耽美的になっているのである。山は白銀である。そして紺碧(こんぺき)である。」まさしくあの愛宕山から見た風景だ。故郷のこの飯坂のことを思い出しました。

君沢☆ えっと

重恩寺 十九歳の少女が書いたと知り、更に感動しました。

君沢☆ あのー

重恩寺 中央公論で『禰宜様宮田(ねぎさまみやた)』を読んだとき、ちょうど仕事がつまみかなくてね・・・おもちゃ作ってるんですけど。いっそ福島に戻ってしまおうかと思っていました。でもね、頑張らなきゃなど。ありがたうございました。それだけを伝えたくて。あなたの書いた小説のおかげで

唐桶 ちょっと待って下さい

重恩寺 君沢さん、お声が・・・？

君沢☆ ちょっと待って下さい

唐桶 終わりだ、終わり。君沢、出てこい

君沢☆ 嫌です

唐桶 出てこい

君沢出てきて

君沢 あーえっと・・・

重恩寺 あなたは

君沢 君沢です

重恩寺 ・ ・ ・

唐桶 申し訳ございません。私、飯坂局の局長の唐桶と申します。君沢くん
君沢 申し訳ございませんでした
重恩寺 えっと、ご説明いただけますか
唐桶 私にもさっぱりですが。とにかくひとつ勘違いをされているようでしたので、
その小説ですか、この子が書いたものではありません
重恩寺 え、いや、しかし電話で確かに
唐桶 君沢！
君沢 違うんです、違うんです。
唐桶 何が違うんだ
君沢 重恩寺さんが、宮本さんに取り次いでくれて言ったんですけど、飯坂の
どの旅館にももうお泊りでなかったものですから、いませんでしたって、も
う一回、私に取り次いで！話そうとしたら！！なんかすごい勢いでなんかお
話されるので！私、圧倒されちゃって
唐桶 その宮本さんに話したい話を君沢に話してしまっただけです
重恩寺 いや、電話口の相手が小説を書いた宮本さんと思っただけ、舞い上がってしま
って、何を話したらいいのかわからなくてですね、天気の話なんかしちゃっ
たりなんかしてああ
唐桶 こんな感じで来たんだな
君沢 はい
唐桶 だがね、君、説明しなかったのか、電話手ですって！
君沢 しましたよ！そしたら、なるほど、今度、会いに行きますって、それだけ言
って切られて
重恩寺 電話苦手でして
君沢 私、君沢って名のつたんです！そしたら、電話手として会いたいって言われ
てるって思うでしょ！
重恩寺 宮本さんがペンネームで、本業は電話手のお仕事をされてる方なんだと・・・。
いや、申し訳ない。申し訳ないです
唐桶 いや、まあ、良いです。なんかそんなに深刻な話ではなかったみたいなので
面目ない！
唐桶 もう一つ聞いていいですか
重恩寺 はい
唐桶 飯坂の方なんですとか・・・。あの貴族とかではなくて
重恩寺 え、ええそうです。貧しい家ですよ
唐桶 あ、あ・・・なんといいですか、いや、申し訳ございませんでした。君沢
が
君沢 でも、重恩寺さんが勝手に
唐桶 おい
君沢 申し訳ございませんでした

重恩寺

いえ。久しぶりに来るきっかけになった。．．．久しぶりに帰ってきたけれど、今も、賑やかな町ですね。おもちゃ屋になりたいって思ったのはね、この街のおかげなんです。

唐桶

飯坂の？

重恩寺

ええ。子どもの頃ですけどね。．．．街の中を、手品使の広告が通って行くんです。満開の桜を両脇に、子どもたちがそれに付いていく。私もその一人だった。

君沢

それ、私も．．．私も覚えてます。赤いトルコ帽の楽隊

重恩寺

そう！顔を白粉で塗った男が、変な帽子かぶってね、腰を曲げて歩いていく。私たちは競うようにして、幟（のぼり）の棒を担がせてもらって。気まぐれに喇叭の音が鳴って。その音はこの空に抜けて、山にこだまして。そんなことを思い出しました。僕ね、おもちゃを作ってるんです。でも、あのときの気持ちを忘れていたかもしれません

電話が鳴る

唐桶

君沢くん

君沢

はい。．．．あの

重恩寺

はい

君沢

私、ここで交換手やってるので。もしかたふるさとのこと、忘れてしまった

重恩寺

からお電話ください

君沢

ありがとうございます

重恩寺

ええ！はい、飯坂電話局です
必ず電話します。それでは

暗転。物語は再び現代に戻り

五月田

今のって

老人

おかえり

五月田

なに、VR？すごい

老人

あんたはその椅子の物語を読んでいたのさ

五月田

物語？

老人

ああ、そうさ。その椅子に染み付いた誰かの想い、記憶。そういう物語を、

五月田

この店は売ってる

老人

売ってる？

五月田

椅子語り屋だよ。ここは。いらっしやいなにそれ

老人

付喪神って知ってるか？

五月田

さあ

老人

あー、そうだな、レコードみたいなもんだ

五月田

レコード

老人

その椅子を大切にひとつた人の記憶、想いの一部が焼きつくんだ。そいつはずっと無くなりやしない

五月田

・・・

老人

あんたが見たのは、その椅子が持っていた記憶。飯坂の電話交換室にあった椅子の記憶。・・・二人は一緒になったそうだ。

五月田

うさんくさい

老人

は？

五月田

いったいどんな技術かしらないけど。怪しい

老人

まあ、いい。つくねの椅子。座ってみなさい

五月田

・・・

老人

そいつを探しに来たんだろう？

五月田

いえ、結構です。・・・ああ、こんな時間。駅までどれくらいかかります

老人

すぐだよ

五月田

そう。それじゃあ

老人

また来なさい

五月田

いいえ、そんなに暇じゃないので。福島に来るのだからって不本意だった。・・・

老人

それじゃあ

五月田はける

老人

ああ、お代。まあ、良いか、またすぐに来るだろうからね。どれ、店じまいにするか。次はどの椅子語りにするかね

ゆっくりと暗転。エピソード2へ。劇終。